

二〇二三年度入学試験問題

国語 (六〇分)

注意事項

- 一、試験開始の合図があるまで、問題冊子は開かないでください。
- 二、この問題冊子は24ページあります。試験中、ページの脱落等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 三、解答用紙(マークシート)の汚れなどに気づいた場合も、同様に知らせてください。
- 四、解答用紙(マークシート)は折り曲げたり、汚したりしないでください。
- 四、解答は、すべて解答用紙(マークシート)に記入し、解答用紙(マークシート)の枠外には、なにも書かないでください。
- 五、解答番号は、1～40まであります。
解答用紙(マークシート)には、問題番号が1～50、選択肢が①～⑩まで印刷されていますが、解答にあたっては、各設問に指示された選択肢の数の中から選んで解答してください。
- 六、マークは必ずHBの黒鉛筆を使用し、訂正する場合は、完全に消してからマークしてください。
- 七、監督者の指示に従って、解答用紙(マークシート)に解答する科目・受験番号をマークするとともに、受験番号および氏名を記入してください。
- 八、解答する科目、受験番号、解答が正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。
- 九、試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

問題一

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

「外部に上位文化がある」という信憑は私たちの「学び」を動機づけできています。それはまた私たちの宗教性をかたちづくってまいります。前章で張良の話をしましたけれど、張良と黄石公の沓の逸話を描いた彫り物が西本願寺の唐門に掲げてあります。浄土真宗の本山にどうして張良の彫り物があるのか。それはこの逸話が単に技芸の伝承にかかわるだけではなく、宗教性の本質にも触れているからです。

辺境人の宗教性は独特のしかたで構造化されています。辺境人はこんなふうに考えます。私たちの外部、遠方のどこかに卓越した霊的センターがある。そこから「光」が同心円的に広がり、この夷蛮の地にまでハキユウしてきている。けれども、その光はまだ十分に私たちを照らしてくれてはいない。

この霊的なコスモロジーは華夷秩序の地政学をそのまま宗教的に書き換えたものです。でも、こういう考え方は宗教的には決して悪いものではありません。宗教性の出発点は何よりもまず「私を絶対的に超越した外部」を構想できる能力と、おのれの無知と未熟を痛感する感受性だからです。

自らを霊的辺境であるとする態度から導かれる最良の美質は宗教的寛容です。異教徒を許容するという宗教的寛容をヨーロッパ世界は無数の屍骸を積み上げた後にしか達成できませんでしたが、日本では宗派間の対立で殺し合いを演じたという事例はほとんど存在しません。私たちの社会では、さまざまな宗教が緩やかに共生しています。排他的な主張をなす信徒集団もなくはありませんし、実際にテロ活動を行った教団もありますが、それはアジアの各地で今も見られるような泥沼の宗教的抗争とは異質のものです。

その反面、辺境的宗教性には固有の難点もあります。それは辺境人がおのれの霊的な未成熟を中心からの空間的隔絶として説明できず、未熟さのうちに安住してしまふ傾向です。

私たちは辺境にいる。中心から遠く隔絶している。A、ここまで叡智が届くには長い距離を踏破する必要がある。私たちはそう考えます。それはいいのです。でも、この辺境の距離感には私たちにあまりに深く血肉化しているせいで、それが今まさにこの場において、霊的成熟が果たされねばならないという緊張感を私たちが持つことを妨げている。霊的成熟はどこかの他の土地において、誰か「霊的な先進者」が引き受けるべき仕事であり、私たちはいざれ遠方から到来するであろうその余沢に浴する機会を待っているだけでよい。そういう腰の引け方は無神論者の傲岸や原理主義者の狂信に比べればはるかに穏当なものでありますけれど、その代償として、鋭く、緊張感のある宗教感覚の発達を阻んでしまふ。

辺境人は外部から到来するものに対して本能的に開放性があります。これはよいことです。けれども、よいところは必ず悪いところと対になっている。遠方から到来する「まれびと」^(注5)を歓待する開放性は今、ここにおける靈的成熟の切迫とトレードオフされています。今、ここがあなたの靈的成熟の現場である。導き手はどこからも来ない。誰もあなたに進むべき道を指示しない。あなたの靈的成熟は誰の手も借りずにあなた自身がなし遂げなければならぬ。^(注6)「ここがロドスだ。ここで跳べ」。そういう切迫が辺境人には乏しい。

^d日本人はどんな技術でも「道」にしてしまうと言われます。柔道、剣道、華道、茶道、香道……なんにでも「道」が付きます。このような社会は日本の他にはあまり存在しません。この「道」の繁昌^{はんじょう}は実は「切迫していない」という日本人の辺境的宗教性と深いつながりがあると私は思っています。「日暮れて道遠し」^e「**B**」^fというようなことがのんびり言えるということは、「日が没する前に道を踏破できなくても、別に構わない」、「学成らぬままに死んでも、特段悔いはない」というテイネンと裏表です。「道」という概念は実は「成就」という概念とうまく整合しないのです。

私たちはパフォーマンスを上げようとするとき、遠い彼方^{かなた}にわれわれの度量衡では推し量ることのできない卓絶した境位がある、それをめざすという構えをとります。自分の「遅れ」を痛感するときに、私たちはすぐれた仕事をなし、自分が何かを達成したと思いつるのとたちまち不調になる。この特性をカンジ^gジョウに入れて、さまざまな人間の資質の開発プログラムを本邦では「道」として体系化している。

「道」はまことにすぐれたプログラミングではあるのです。けれども、それは（誰も見たことのない）「目的地」を絶対化するあまり、「日暮れて道遠し」という述懐に託されるようなおのれの未熟、未完成を正当化^hしてもいる。これはいくつかの「道」を試みてきた私自身ⁱの反省を踏まえた実感でもあります。

「道」は教育方法としてはたしかに卓越した装置です。仮に、私がある宗派なり流派なりの宗祖家元であると名乗ってしまうと、私はあらゆる試みに対して、その場で、わが身を以て^もおのれの卓越性を証明しなければならぬ。何か質問されて「よく分かりません」と返事することが許されない。「他流試合」を申し込まれたら逃げ出すわけにゆかない。

けれども道統を継ぐ「弟子」のポジションに立つ限り、この責任を免ぜられません。むずかしい質問を受けても、「分かりません」と答えることが許される。「師なら答えられたでしょうが」と言い添えさえすればいい。「奇跡を起こしてみせろ」と詰め寄られても、胸を張って「できません」と答えることができる。「師はできたのですが」と遠い目をすればよい。

伝承の末端の、もっとも遅れて来たものという立場をとっていれば、自身の卑小や無能は、伝えている当の伝承の価値を少しも毀損^{きそん}

することがありません。むしろ、もはや当代の誰も実見することも再現することもできないほどの「失われたもの」の偉大さを迂回的に証明することさえできる。

芸道では「指を見るな、月を見ろ」と言いますが、指は「月」の方位さえ師から正しく教わっていけば、私たちは弟子に同じものを指し示すことができます。私自身の指が長かろうと短かろうと、多少ブサイクであろうと、方位さえ指し違えなければ、道統の伝承には差し支えない。私の実現できる技芸や私知っている知識は師に比べればはるかにわずかなものにすぎないという謙抑的な名乗りをしている限り、私たちは自分にできないこと、自分が知らないことでさえ次代に伝えることができる。これが「道」という教育プログラムのきわだつて優れた点です。「道」に寄り添っている限り、「ここがロドスだ。ここで跳べ」という切迫に遮られることなく、腰を据えて道統を伝えることができる。

C 同時に、その利点はそのまま修業の妨げともなりません。私が現に学んでいること、私が現に信じていることの真正性を、私自身は、今この場で挙証する責任を免ぜられているからです。道統の真正性、卓越性を挙証する仕事は「師」に遡及されるか、何代かの「弟子」に先送りされるか、いずれにせよ今ここにいる私には求められない。「道」的プログラムを採る限り、「今ここで一気におまえが成就したものを提示して見せろ」という切迫をシステマティックに退けることができる。なるほど「道」は教育プログラムとしてはまことにすぐれたものですが、「私自身が今ここで」というきびしい条件は巧妙に回避されている。

武道の場合はこのアポリアで多くの武道家が苦しんできました。道を究めようと望むなら「これでいい」という安易な達成感を持つことは許されません。けれども、それは達成感を「持たなくてもよい」ということではない。半端な腕前で「開祖」や「宗家」を名乗るのは危険なことですが、それなりの覚悟がなければそういうことはできません。逆に、長く修業して高い技芸のスイジュンに達しながら「私には人を教える資格はありません」と尻込みしている人には秋霜烈日の気合いがどうしても欠ける。自己陶冶の目的を無限遠点に措定すること、今ここで自分になしうる「最高のもの」を示すことという、矛盾する要求に同時に答えなければならぬ。このアポリアに、誠実な武道家はみな苦しみます。

同じ問題に日本の過去の宗教者たちもまた直面したのではないかと私は思います。おのれの未熟をカムアウトすることで、今、ここに、おける、霊的成熟という切迫から自らを免ずることを許せば、自己超越の緊張感が緩むことは避けがたい。しかし、その緊張抜きには必要な霊的深さには至りつけない。

中世以来、日本の多くの宗教家はこの辺境人固有の宗教問題に遭遇し、それぞれの工夫を凝らしただろうと私は思っています。凡庸な宗教家であれば、フィジカルに苛酷な修行を課したり、敵対宗派との抗争の緊張感に置き換えたり、「法難」的状况に身を置いたり、

という仕方では宗教的緊張感を別種の緊張感で代補するという「方便」に頼ることもできたでしょうが、すぐれた宗教家は「辺境における自己超越の緊張」という難問にまつすぐ取り組まざるを得なかった。

辺境人固有の宗教問題、それはさきほど定式化した通り、靈的なセンターから隔絶しているせいで靈的に未完成であり未成熟であることが説明され、一気に大悟解脱(注9)しようと願うことよりも緩やかに成熟の階梯(かいてい)を上ることの方が勸奨されるような土地柄で、今ここで、一気に普遍的な宗教的深度に至ることは可能か、という問いです。「ここはロドスではない。でも、ここで跳べる」というロジックは成立しうるかという問いです。

(内田樹たくら『日本辺境論』による)

(注) 1 動機つけ……人間や動物を行動に駆りたてること。

2 張良と黄石公の杵の逸話……張良は、劉邦(りゅうほう)に仕え、前漢の建国に貢献した軍師。黄石公から兵法の秘奥を授けられた逸話があり、学ぶことについて示唆を与えてくれるものとして知られている。

3 コスモロジー……宇宙論。

4 華夷秩序……中国の王朝を世界の中心とする思想。中華思想。

5 まれびと……民俗学で、遠方からまれに訪れる神や聖なる人のこと。

6 「ここがロドスだ。ここで跳べ」……イソップ寓話「ほら吹き男」に登場する成句。ロドス島で開かれた競技会で大跳躍をしたと自慢する男に、別の男が「ここがロドスだと思つてここで跳んでみる」と返す。

7 アポリア……哲学的な難題のこと。

8 秋霜烈日……秋の冷たい霜や夏の厳しい日差しのように、刑罰や権威などがきびしく厳かなものであること。

9 大悟解脱……仏教で、大悟は迷いを脱して真理を悟ること、解脱は人間がもつあらゆる苦悩や迷妄から解放されて自由の境地に達すること。

問一

傍線部 a・e・g・i・j と同じ漢字を含むものはどれか。次の 1～4 のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。解答番号は 。

a 「ハ|キユウ」

- 1 哲学からハ|セイした学問。
- 2 音のハ|ケイを表示する。
- 3 ハ|スウを切り捨てて計算する。
- 4 粗大ごみをハ|サイする工場。

e 「テイ|ネン」

- 1 彼は私のギ|テイにあたる。
- 2 テイ|サイを気にする。
- 3 世の移り変わりをテイ|カンする。
- 4 外国にテイ|ジュウする。

g 「カン|ジョウ」

- 1 カン|ペキに仕上げる。
- 2 それだけはカン|ベンしてほしい。
- 3 日本円にカン|サンする。
- 4 ギョウカン|を読む。

i 「ブ|サイク」

- 1 芸術にサイ|カクのある人。
- 2 たばこはイッ|サイ吸わない。
- 3 サイ|シンの注意を払う。
- 4 組織のサイ|ケンを図る。

j 「スィジョン」

- 1 脱プラスチックをスィジョンする。
- 2 なんてブスィイな人だろう。
- 3 毎日ケンスィイをする。
- 4 センスィシの資格を取る。

問二 傍線部 b 「宗教的寛容」とあるが、それはどのようなことか。次の 1 ～ 4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。

解答番号は 。

- 1 自己の無知を自覚するがゆえに、他の宗教に媚びない態度をとること。
- 2 自らの信じた宗教のみならず、その他の宗教をも否定せず共存すること。
- 3 異教徒による信仰を積極的に受け入れ、さまざまな宗教の要素を取り入れること。
- 4 特定の宗教に傾注することがなく、宗教間の争いをほとんど起こさないこと。

問三 傍線部 c 「辺境的宗教性には固有の難点もあります」とあるが、どのような「難点」があるか。次の 1 ～ 4 のうちから最も適当

なものの一つを選びマークしなさい。解答番号は 。

- 1 中心からの物理的または精神的な距離によつて叡智の到達が遅く、宗教的な発達において不利である。
- 2 叡智をもつ中心的存在とは異なるという自覚から、未熟さに寛容になつてしまい、宗教的な発達が遅れる。
- 3 自分たちが宗教的な成熟を果たすという切迫した思いが薄れ、中心にいる者の力を頼るような状態になる。
- 4 自らの未熟さを中心と辺境という霊的環境のせいにして、宗教的な成熟を目指すことを放棄してしまう。

問四 空欄 ・ に入る語句はなにか。次の 1 ～ 8 のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

い。解答番号は ・ 。

- 1 けれども
- 2 なお
- 3 または
- 4 たとえば
- 5 あるいは
- 6 では
- 7 そこで
- 8 だから

問五 傍線部 d 「日本人はどんな技術でも「道」にしてしまうと言われます」とあるが、ここでいう「道」と同じ意味で「道」という

字が使われている熟語はどれか。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 10。

- 1 歌道
- 2 報道
- 3 道化
- 4 道楽

問六 空欄 B に入る語句はなにか。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 11。

- 1 光陰矢の如しごと
- 2 百聞は一見に如かず
- 3 禍わざわいを転じて福となす
- 4 少年老い易く学成り難し

問七 傍線部 f 「道」という概念は実は「成就」という概念とうまく整合しないのです」とあるが、それはどのようなことか。次の

1～4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 12。

1 「道」は卓越した境位をめざすもので、「成就」したと感ずるのは未熟ゆえの思い上がりで、「道」の本質を見失っているところ。

2 「道」は遠くの卓越した境位をめざす形を取ることで、未完の自分を正当化できてしまい、「成就」することからうまく逃れられるところ。

3 彼方にある目的地をめざす過程で、おのれの未熟と向き合うことが「道」の核心であり、「成就」することは重要ではないということ。

4 遠く絶対的な目的地をめざす特性ゆえに、「道」を究める行為自体に満足してしまい、かえって「成就」から遠ざかるといふこと。

問八 傍線部 h 「もはや当代の誰も実見することも再現することもできないほどの「失われたもの」の偉大さを迂回的に証明することさえできる」とあるが、それはどのようなことか。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は

13。

- 1 今ここにいる私が達成することができなかったことを成し遂げた師は偉大だ、と説明できるということ。
- 2 今では失われてしまったものがかつて備えていたこの道統はすばらしいものだ、と結論づけられるということ。
- 3 今ここで私には成就できないという事実が師との差を際立たせ、師への敬意を再確認できるということ。
- 4 今の自分には知らないことやできないことがあると自覚していることが、道を究めている証拠になるということ。

問九 傍線部 k 「同じ問題」とあるが、どのような問題か。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は

14。

- 1 卓越した境地に至れないことを正当化する道筋があるなかで、今ここで卓越した境地に至ることに意義はあるか、という問題。
- 2 自分は卓越した境地をめざす身であるとする一方で、自らが究めた成果を「最高のもの」として示すことは許されるのか、という問題。

3 今ここでは卓越した境地から程遠い存在である自分が、卓越した境地に到達することを実現しうるのか、という問題。

4 卓越した境地は遠くにあるという理屈の上に身を置きながら、自らが今ここで卓越した境地に到達することはできるか、という問題。

問一〇 傍線部 l 「方便」とあるが、筆者が「方便」と表現するのはなぜか。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は

15。

- 1 別種の緊張感で宗教的緊張感を補うことは、正攻法ではないが時として有効な方法だから。
- 2 自己超越の緊張感それは自己と向き合うことでしか保てないので、別種の緊張感で補おうとすることは間違いだから。
- 3 他の緊張感をもって補うことは、自己超越の緊張感が緩むという問題を根本から解決する方法ではないから。
- 4 凡庸な宗教家では、別の方法で緊張感を保てたとしても自己超越に至るにはほど遠いから。

問題一 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

現代社会におけるメディア・リテラシーを語る上で、とりわけ重要なのが「インターネット上の情報」との向き合い方でしょう。必要な情報がいとも簡単に手に入るという意味で、インターネットがこの上なく便利なメディアであることには異論はありません。ただ、常に意識しておかなければいけないのは、インターネットから得られる情報は「玉石混淆」^aだということです。

専門家や学者先生が発信している正確で有益な情報から、その辺の誰かが適当に書き込んだ根拠のない情報、さらには意図的に捏造された情報まで、十把一絡げでこちゃ混ぜに存在しているのがインターネットの世界です。そこでは「玉」よりも、むしろ「石」の間違った情報」のほうが多いかもしれません。

また、そうした「石」の情報ほど独り歩きしやすい傾向があります。ネットの世界では何の根拠も確証もない誤った情報（デマ）が瞬く間に不特定多数に拡散し、シユウシユウがつかなくなるといった状況が珍しくありません。グリム童話『ハーメルンの笛吹き男』のように、吹き鳴らされた笛（＝流された情報）につられて、判断力のない子どもたち（＝鵜呑みにしてしまう人たち）が群れになってついていってしまう——そんな現象が起こり得るのです。

2016年の熊本地震の発生直後、^{注2}ツイッターに「動物園からライオンが放たれた」という一文がライオンの画像とともに投稿されました。この投稿はたちまち多くのリツイートによって拡散し、動物園や警察に問い合わせが殺到。ところがこの投稿はまったくのデマで、ライオンの画像も無関係な写真だったのです。最終的に投稿者は逮捕されたのですが、実に多くの人がウソのネット情報に、^dホンロウされてしまったわけです。

膨大かつ玉石混淆で、正しい情報も愉快的な悪意あるウソ情報も、何もかもが同じ土俵に上げられてしまう。——インターネット情報の特徴は、そうした圧倒的なモウラ性と並列性にあります。そして、私たちは自分自身で、情報の真偽や正誤を判断して取捨選択しなければなりません。

手軽に、簡単に情報が入手できる時代だからこそ、それが「玉」^{ぎよく}なのか「石」^{せき}なのかをしつかり見極めるために、^f冷静になって能動的に真偽を判断・読解するスキルが求められるのです。

A SNSやブログの普及によって、今や誰もが自由に情報を発信できる“一億総発信時代”になっています。そんな時代ゆえ、情報の真偽を判断できないというリスクは、間違った情報を誰かに発信（シェア）するリスクにも直結してしまいます。「ライオ

ンが逃げた」のようなデマの拡散はその顕著な例と言えるでしょう。情報を受け取るときも、情報を発信するときも——私たち現代人は常に、自らのメディア・リテラシーを問われる時代に生きているのです。

ネットに限らず、あらゆるメディアが発する情報を読み解くメディア・リテラシー（情報読解力）には、ふたつの重要なプロセスがあります。ひとつは「まず疑う^g」こと、ふたつめが必ず「裏を取る」ことです。

ひとつめの「まず疑う」は、月並みな言い方をすれば「情報を鵜呑みにしない」ということ。そのためには目の前の情報に対して常に批判的な視点を持つておくことが大事になります。

そのとき大事にしたいのが、その情報を前にしたときの「何だか怪しい」「どこかしっくりこない」「話が出来すぎていないか?」「都合が良すぎはしないか?」——という感覚、つまり違和感です。

違和感を察知する「違和感センサー」を研ぎ澄まして、少しでも引っかけかりを覚えた情報に対しては、まず疑いの念を持って向き合い、そのままでは信用しない。これが情報の真偽を読み解くメディア・リテラシーの基本姿勢になります。

例えば、本をネットで購入する人も多いかと思えます。私もよく利用するのですが、その際にはレビューのチェックを欠かしません。おもしろそうな本を探してあれこれレビューを見ると、ときどき、発行してからまだ数日しか経っていないのに、もう「☆5つ」の最高評価ばかりが10も20も並んでいることがあります。さらに、すべてのレビューがその本をゼツサン^hし、ほめちぎっているんですね。

こういう極端なレビューを見たとき、「『☆5つ』ばかりズラリと並ぶのは、何だかおかしい」と思えるかどうか、これが大事なのです。

私の場合、こうした違和感を覚えるようなレビューに出会ったら、☆5つをつけている人が他の本にはどんなレビューを書いているのかを「追跡調査」するようにしています。すると、その本だけにしかレビューを投稿していない人が何人もいるケースがよくあるんですね。これはいよいよおかしいと。この人たちはこの本をセンデンする目的で高評価レビューをつけているんじゃないか——。そんな疑問を感じながらレビューを見ていくと、たまに「あの『☆5つ』に惑わされてはダメ」「あのレビューは、きつとステマ^{注4}です」といった投稿が出てきて、「やつぱり」と得心がいくこともあります。

極端なほめ過ぎに違和感を覚えることで、ズラリ並んだ高評価レビューを「マユツバもの」かもしれない。そのまま真に受けな

ほうがいい」と読み解くことができます。

本当は、きちんと読んだ人の正直なレビューなのかもしれません。その本は本当に素晴らしい内容なのかもしれません。しかし、そこに少しでも違和感を覚えたときは、すぐには信用しない。確かな根拠のないものについては、少なくとも「本当なのか？ ウソではないのか？」と疑ってみる。

疑わしきは信じない——この意識を持つことが、ネットという海で「石」をつかまないとための基本の防衛策になるのです。

違和感センサーが反応した疑わしい「推定有罪」の情報は信じない。鵜呑みにして発信しない。これがメディア・リテラシーの基本です。では、そうした不確かだ疑わしい情報を前にしたとき、どのようにしてその真偽を見極めればいいのか。

答えはシンプルかつ明快。その情報を、多角的かつ徹底的に調べてみることです。 **B**、情報の「裏を取る」のです。

「裏を取る」とは、情報の真偽を識別できる証拠を集めて事実関係を確認すること。容疑者の不確かな供述の裏を取る刑事のように、不確かな情報があつたら事実関係を徹底的に調べて真偽を確かめる。そして、裏が取れた（正しいと判明した）情報以外は信用しない。これもメディア・リテラシーのもうひとつの基本姿勢になります。

そして、情報の裏を取る際に有効活用できるのが、他ならぬインターネットを使った「ネット検索」なのです。

疑わしい情報が多いネットで裏を取るというのは矛盾しているのでは——そんな声もあるでしょう。

しかし、インターネットの爆発的な普及・浸透・進化によつて、書き込みをする人の数も膨大になり、提供される情報の量も増え続けています。

確かにネット上には「石」の情報が多いかもしれません。しかしながら、ネット情報という「母集団」がここまで巨大化している今、同時に、正確で根拠のある「玉」の数も格段に増えてきています。

ネット情報をそのまま鵜呑みにするのはもちろん危険ですが、だからと言って、ネットの存在を無視して、まったく使わずにメディア情報を読み解く、情報の真偽を調べるといっても、これまた危険な行為なのです。

ある情報を前にして、「これ本当なの？」「何だか怪しそうだから、とりあえず調べてみよう」というとき、インターネットは非常に役に立ちます。私も疑問を感じた情報については、もちろん新聞や本などの活字情報もチェックしますが、同時にネットでも検索をかけて徹底的に調べるようにしています。

そもそも私はネットであれこれ調べるのが大好きで、誰かと雑談していても、「それって本当？」という話になったら、すかさずその場で、スマホ検索するのがクセになっていくほどです。検索すれば、とりあえず「〇〇新聞のサイトでも記事になってるから、本当の可能性が高そうだね」などと、おおよその推測をすることができずから。

今の世の中、スマホがあればすぐにネットで情報をチェックできます。100%白か黒かを識別することは難しくても、疑わしいのか、信用できそうなのかのアタリをつけることくらいは、誰だってできるようになっています。

なのに、それをしないという人が想像以上に多いんですね。非常にもつたいないというか、現代においては「どうかしてる」とさえ思ってしまう。スマホでサッと調べれば瞬時にわかりそうなものなのに、それをしないのですから。

そういう人に限って、「いや、ネット情報は危険で信用できませんから」と言います。でも、ネット検索での裏取りすらせずに独断で「正しいor間違っている」を判断してしまうほうがもつと危険でしょう。

さいとうたかし
齋藤孝『大人の読解力を鍛える』による

- (注)
- 1 『ハーメルンの笛吹き男』……物語の中で、子どもたちは笛の音につられて笛吹き男についていき、そのまま行方がわからなくなってしまう。
 - 2 ツイッター……SNSの一つで、一四〇文字以内の文章や画像、動画を投稿できる。
 - 3 リツイート……ツイーターで投稿される文章や画像、動画をツイートといい、ツイートを引用してふたたび投稿することをリツイートという。
 - 4 ステマ……ステルスマーケティングの略で、広告であることを隠して商品の評価や情報を発信すること。

問一 傍線部 a・b の語句の意味はどれか。次の 1～4 のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。解答番号

は 16 ・ 17。

a 「玉石混淆」

- 1 良いものが悪いものに変化すること
- 2 良いものと悪いものが入り混じっていること
- 3 悪いものが良いものに見えること
- 4 良いものも悪いものもたくさんあること

b 「十把一絡げ」

- 1 一つひとつの内容よりも数を重視すること
- 2 たくさんのものを整理せずに集めること
- 3 それほど重要でないことでも重要なものとして扱うこと
- 4 さまざまな種類のものを区別せずひとまとめにして扱うこと

問二 傍線部 c・d・e・h・i と同じ漢字を含むものはどれか。次の 1～4 のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマ

クしなさい。解答番号は 18 ～ 22。

c 「シユウシユウ」

- 1 観光用のシユウユウルートで運航する船。
- 2 有名な料理家がカンシユウしたランチ。
- 3 シユウトクした定期券を警察に届ける。
- 4 クラスでいちばんのシユウサイ。

d 「ホンロウ」

- 1 説得してホンイを促す。
- 2 資金集めにホンソウする。
- 3 ムホンを企てる。
- 4 キョウミホンイで行動する。

e 「モウラ」

- 1 モウモク的に信じる。
- 2 裏切るつもりはモウトウない。
- 3 モウマクに像を結ぶ。
- 4 ショウモウ品を交換する。

h 「ゼツサン」

- 1 多くのサ|ンドウを得る。
- 2 地震のサ|ンを伝える写真。
- 3 グループ最|コサ|ンのメンバ|。
- 4 ブ|ンサ|ン投資を勧める。

i 「センデン」

- 1 良問をセ|イセ|ンする。
- 2 セ|ンボウのまなざし。
- 3 地名のヘ|ンセ|ンを調べる。
- 4 選手セ|ンセ|イを行う。

問三

傍線部 f 「冷静になつて能動的に真偽を判断・読解するスキルが求められるのです」とあるが、筆者が「能動的」という言葉を使うのはなぜだと考えられるか。次の1〜4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 23。

- 1 膨大で種類もさまざまなインターネット情報であるが、それらを自分自身で取捨選択しようという心構えがこの文章の読者にはあるはずだという期待を示すため。
- 2 インターネットにはウソや根拠のない情報、不確かな情報が大量にあふれているので、受動的な態度ではそれらに振り回されてしまうと警告するため。
- 3 正しいものと間違つたものが区別なく存在するインターネット情報を扱う際は、その情報の真偽や正誤を一人ひとりが判断していく必要があることを強調するため。
- 4 雑多なネット情報が正しい情報なのか間違つた情報なのかを見極める力は、受け取る場合だけでなく発信する場合にも必要であることを印象づけるため。

問四

空欄 A・B

に入る語句はなにか。次の1～8のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

い。解答番号は 24・25。

- | | | | | | | | |
|---|-----|---|-----|---|-----|---|------|
| 1 | しかし | 2 | けれど | 3 | すると | 4 | もしくは |
| 5 | さらに | 6 | だから | 7 | つまり | 8 | では |

問五

傍線部 g「まず疑う」とあるが、それはどのようにすることか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 26。

- 1 どのような情報に対しても、まず一度疑ってみて自分でその情報の根拠を探し、信用できる情報か判断する。
- 2 購入サイトのレビューのように出どころが信頼できない情報は疑い、関連する情報を調べるなどしてその真偽を読み解く。
- 3 その情報になにか引つかかる点がある場合、疑ってみて自分で他の情報を集め、信用できる情報かを多角的に見極める。
- 4 情報に不自然な点があつたり少しでも違和感を覚えたりするとき、そのような情報は疑い、信じないようにする。

問六

傍線部 j「情報の裏を取る際に有効活用できるのが、他ならぬインターネットを使った「ネット検索」なのです」とあるが、なぜ「裏を取る」ときに「ネット検索」を使うのか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 27。

- 1 インターネットは書き込みをする人の数が膨大で、情報の量が多いから。
- 2 インターネットは多くの人が書き込むので、そこにしかない情報が得られるから。
- 3 ネット上にも正確で根拠のある情報が以前より増え、見つけやすくなったから。
- 4 ネット情報は増え続けており、最新の情報を見つげられるから。

問七

筆者が文章中で述べているインターネットに関する考え方にあてはまらないものはどれか。次の1～4のうちから適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 28。

- 1 インターネットを使う際には、情報を受信する場合だけでなく、発信する場合にもメディア・リテラシーが求められる。
- 2 ネット情報は新聞や本などの活字情報に比べて信憑性しんぴやうに欠けるので、ネット情報だけで情報の真偽を判断するのはよくない。
- 3 インターネットの情報には正しく有用なものもあるが、目の前の情報が信用できるか検討せず鵜呑みにするのは危険である。
- 4 ある情報の真偽を判断するときに、インターネット上の情報は信用できないと言って検索すらしないのは間違った姿勢だ。

問八

次のI～IVは、文章中に登場する「動物園からライオンが放たれた」という情報がツイッターで拡散された例について、どのように対応すればよかったか考えたものである。I～IVのうち、メディア・リテラシーを備えた対応を正しく選んだものはどれか。

次の1～6のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 29。

- I あるサイトで「動物園からライオンが放たれた」という情報を目にし、調べたところ情報源はツイッターだとわかったので、情報源となった投稿を見た上で信用しなかった。
- II ツイッターで「動物園からライオンが放たれた」という投稿が拡散されているのを見たが、一気に拡散されている情報なので怪しいと思い、信用しなかった。
- III ツイッターで「動物園からライオンが放たれた」という投稿を見て、インターネットで関連する情報を検索したところ、元の投稿以外にライオンが放たれたという情報がなかったため、信用しなかった。
- IV ツイッターで「動物園からライオンが放たれた」という投稿が拡散されているのを知り、関連する情報を探したが確実な情報を得られず、ウソである可能性が否定できなかったため、信用しなかった。

- | | | | | | | | | | | | |
|---|------|---|-------|---|------|---|--------|---|-------|---|--------|
| 1 | IとII | 2 | IとIII | 3 | IとIV | 4 | IIとIII | 5 | IIとIV | 6 | IIIとIV |
|---|------|---|-------|---|------|---|--------|---|-------|---|--------|

問題三 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

人間の死に関してよく言われている言葉に、「人間は生きてきたのと同じように死ぬ」とか、「死は人生の総決算」といった言葉がありますよね。

この裏にあるのは、いい生き方をしておけば、その分いい死に方ができるという楽天的な考え方です。そしてまたある意味では、死の前にあって無力な人間が、せめてもの気慰めにでも、信じずにはいられない理想なのかもしれません。

内科病棟に就職して間もなく、長年大学の名誉教授をされていた、八十年代後半の男性の死に立ち会いました。彼は、長い闘病の間も、人に対しては折り目正しく、配慮をなくさない人だったといっています。

私が就職した時には既にその病状は最終局面を迎えており、苦しげな息で時折妻に何かを話す程度でした。それでも看護婦に対しては身体を拭いたり、身の回りのお世話をするたびに目をぎゅつとつぶつて軽く頭を下げ、深い感謝の気持ちを示してくださいました。

最期の時に、彼は家族をまわりに呼び寄せ、一人一人にほんの一言ずつ短い言葉をかけたあと、「自分は、最期まで自分らしく逝きたいと思います」と目を閉じて言い、それが彼の最期の言葉になったのです。

家族も、医師も、看護婦も、その光景を前に、悲しみと同時に感動の涙を抑えることができませんでした。まだ看護婦としての経験の浅かった私も、その彼の死を見て、立派な人はやっぱり立派に死んでいくものなんだなあと思いました。

しかしその私の思いは、すぐに破られることになりました。

その後も多くの人の死を見ていく中で、まずわかったことは、彼のように、最期まで意識がはっきりしていて、きちんと何かを言い残して死ぬること自体が、非常にまれなことだということ。

同じ肺がんで亡くなった人のほとんどは、耐えられない息苦しさを取るためにモルヒネ(注1)を使って意識を落としたり、そうでなければ脳への転移で意識が落ちたりと、最後の段階ではもうろうとさされていました。これでは本人がどんなに家族と対話したくても、どうにもなりません。

ドラマの中に出てくる、ドラマチックな死に際は、今の病院ではほとんどお目にかかれないと思つて間違いありません。

また、肺がんで脳への転移のほか、骨にも転移しやすいのですが、その骨転移の痛みや、それによる神経の圧迫のためにしびれに悩まされる人も多く、こちらに対しても、モルヒネが適応になります。これによつて苦痛が取れば、もちろん残された日々を安楽に

過ごすことができ、精神状態も安定するわけで、モルヒネの使用は好ましいこと。しかし、中には、効果があまり上がらない例もあります。そうになると、その苦痛によって、患者さんの人格が変わってしまうことがしばしばです。

苦痛が人格を変える——。そのことを痛感させられたのは、ある七十代の女性の闘病に出会った時でした。

彼女は、幼い頃から足が不自由で、ようやく一人で歩ける状態だったのですが、持ち前の明るさとがんばりでそのハンディを克服し、幸福な家庭を築いていました。肺がんで入院をくり返していたものの、最後の入院まで見た目には元氣そのものでした。身体が弱ってきてからも、廊下の手すりにつかまりながら、一人で歩いている彼女の姿は、どこまでも前向きでした。

私たちはよく、そんな彼女と「軽口をたたきあつたものです。
「がんばって歩かれますね」

「ええ。みなさんのおかげで元氣。みなさんの若さを分けていただいているようですよ。ほら、しわも少しのびたでしょ」

「今日もだんなさまはご面会にいらつしやるんですか」

「ええ。ええ。ダーリンは、私の顔見ないと眠れないんですって」

「それはそれは。ごちそうさま」

「はいはい。御代おだいはいりませんよ」

そんな彼女に対して、夫や子供たちもよく尽くしており、先行きは暗いながらも、最後まで彼女らしい闘病ができることだろうと思つて見守る思いでした。

ところが運命は、とても残酷。死を一気に引き寄せることはせずに、徐々に、徐々に彼女を打ちのめしていったのです。

絶え間ない吐き気で食事がとれなくなった彼女は、やがて歩けないほど衰弱すいじやくしてしまいました。それはまさに、がんそのものによる衰弱。肺がんからくる呼吸器の症状自体が出ていなかっただけに、その決着は遅く、自立心の強い彼女にとっては、この上もない苦痛だったに違いありません。

吐き気止めの薬も、鎮静剤もほとんど効果を示さず、彼女の衰弱は進むばかりでした。初めは無理に笑顔を作つて、

「大丈夫ですよ。今が一番つらい時なんでしょうから」

と自分を励ましていた彼女にも、だんだんと氣力の限界が迫っていました。

そしてある時、使つたあとのポータブルトイレ(注)を片付けるのが少し遅れたと言つて、彼女は初めて私たちに怒りを露あらわにしました。

「全く。今の若い子は何も気がきかないんだから」

その時を境に、私たちの蜜月は終わりを告げたのです。

それ以来、彼女は誰にも心を開かなくなりました。看護婦に対していつもにこやかに接していた彼女からは想像もできない、沈黙と冷笑が、すべての援助に対しての答えでした。

体を拭いても。

便器で排泄の世話をしても。

食事の前に手を洗うよう、お湯をくんで持っていつても……。

彼女はただ固い表情で「どうも」と言うだけで、私たちと何も話そうとはしてくれません。

しだいに私たちも、彼女に対して、当たらず触らずの関わりになっていきました。

もちろん、体の具合が悪くなったら、誰だつていい機嫌で人には向き合えません。しかし、元がいい人ただけに、その変化の激しさは、ベテランの看護婦をも戸惑わせたものです。

それには家族すら耐え難かつたようで、見舞いの足が遠のいてしまい、そのことがまた、彼女のいらだちを誘っていたように見えま

した。
結局彼女は、すべての人と気まづいままに、亡くなってしまいました。後に残つたのは、何とも言えない無力感。もう少し苦痛を取つてあげられたなら、彼女の人格はあそこまで崩壊せず、家族とともに思い出深い何週間かを作つてあげられたのではないかという後悔もありました。

「元気な時の妻のことを覚えていてください」

夫は、私たちにそういう残して、妻の遺体とともに自宅へと帰っていきました。

この、二人の最期を比べた場合に、いい死に方をしたのは、どう考えても最初の彼のほうでしょう。しかし、ではそれが二人の生き方のよしあしによる違いかと言えば、決してそうとは言えないと思うのです。

それはひとえに、病気の成り行きの違い。そう割り切つて、その人の生き方まで云々しないことが、私の、彼女に対するせめてもの誠意の示し方なのです。

もちろん、患者さんの生き方のすべてを見ているのではない以上、その生き方の中に、死に方の差につながる何かがあったとは言

えません。でも、他人である私たちが、そこまで判断できる力も、権利もないはず。死の方によってその人の生き方のよしあしを語ることは、医療者にあつてはならないことだと思ふのです。

死ぬことそれ自体の悲しさ・切なさは同じでも、死の方には、やはり苦痛の少ない死と多い死があります。

彼の死は、高齢で体力がなかったことが幸いして、肺がんとしては非常に苦痛の少ない死に方だったように思います。片や、彼女は若くて体力があつた分、気の毒だったと言えるかもしれません。

いじわるな見方をするなら、彼だつて苦痛が長引けばどんな弱い面を見せないとも限らなかつたでしょう。

死に際して人格が保たれるかどうかは、病気の成り行きにそのほとんどがかかつており、それを決めるのは、ただその人の運なのです。

ですから、死の方を見てその人の生き方までを判断することは、死というものを甘く見ている気さえします。

どんなにいい生き方をしたとしても、その先にどんな死が待っているかなんて、誰にもわからないこと。人間は、基本的に、降りかかつてきた死を死ぬことしかできないのではないのでしょうか。

ただ、そう言いつつも、私が思うのは、では、いい死に方をしたいと思つた時に人間にできることは何なのか、ということ。ただ運命に身を任せるといつても、それでは日常的に、死の恐怖を打ち消すことができなくなります。私自身も、弱い一人の人間です

から、いろいろな死の現実を目の当たりにしながらも、やっぱり少しでも心残り少なく、それなりにいい人のまま、苦しまずに死にたいなあと思ふことを考えてしまうのです。

そのためには、やはり今を大事に、一生懸命生きていくしかない。身体の続く限り、やりたいことをやっておいて、いざ寝ついてからも、"あれだけやりたいことをしたんだから悔いはない"と思えるように、生きていくしかないんですね。

だから、努力目標としては、やっぱりいい生き方をした分、いい死に方ができると信じることは、人間が前向きに生きるためには必要な夢だと思います。しかし、その夢をあたかも絶対の真理のように思い込んで、死の方を見て生き方を評価するということは、あつてはならないことなのです。

基本的に、人間は生まれてくると死ぬことに関しては、ほとんど運命のなすがままになるしかない。だからこそ、その中身である生き方の部分を、少しでも自分の意思によって形作りたいと思うのかもしれない。

人間のやることは、すべて人事を尽くして天命を待つ——である。医療という最新の科学の現場にいながら、そんな素朴な感覚が思ひ起こされてくるのです。

私は死について考える時、精一杯生きて、死という天命を待つだけだと、思うようにしているのです。

(宮子あずさ『看護婦が見つめた人間が死ぬということ』による)

(注) 1 モルヒネ……通常の鎮痛薬で十分な効果が得られない場合に用いられる、強力な鎮痛薬。

2 ポータブルトイレ……自由に動かせる簡易式のトイレ。

問一 傍線部 a 「楽天的な考え方」とあるが、筆者が「楽天的」と言うのはなぜか。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一つ選び

マークしなさい。解答番号は 30。

- 1 死に際の過酷さを知らないからいえる無責任な考え方だから。
- 2 人の死を他人事として軽く見て、生き方のよしあしを語る横暴さを感じるから。
- 3 死に方は運によって決まるもので、死の前で人は無力なのに、自分で死に方を決められるような考え方だから。
- 4 立派な死に方をするのは誰にでもできる簡単なことではなく、並大抵の精神力や体力では実現できないから。

問二 傍線部 b 「悲しみと同時に感動の涙を抑えることができませんでした」とあるが、患者のどのような姿勢に感動したのか。次の

1～4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 31。

- 1 苦しみの中でも我欲を捨て、人間としてあるべき姿を示そうとした姿勢。
- 2 強い信念で病気の苦しさに打ち勝ち、自分らしく人生を終えようとした姿勢。
- 3 最期まで他人への配慮を忘れず、自分の生き方を貫こうとした姿勢。
- 4 立派な一生を遂げて、後に残る人たちへ希望を残そうとした姿勢。

問三 傍線部 c 「しかしその私の思いは、すぐに破られることになりませう」とあるが、それはどのようなことがわかったからか。次の

- 1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 32。
- 1 病気による死の間際には、意識に影響を与える治療を行うこと。
 - 2 病気で死期が近づくと、病気の痛みや苦しみを治療で取り除けない場合があること。
 - 3 死期が迫ると、苦しみに耐えられずに自暴自棄になる患者が多いこと。
 - 4 病気で死ぬ間際には、自分の意志で自らを制御できることはめずらしいこと。

問四 傍線部 d・f・i の語句の意味はどれか。次の 1～4のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。解答

番号は 33 35。

d 「軽口をたたきあつた」

- 1 軽妙なことを言いあつた
- 2 悪い冗談を言いあつた
- 3 とりとめのない会話をした
- 4 大事なことを話し合った

f 「蜜月」

- 1 友情
- 2 交流
- 3 楽しい日々
- 4 親密な関係

i 「云々しない」

- 1 立ち入らない
- 2 とやかく言わない
- 3 指図しない
- 4 吹聴しない

問五 傍線部 e 「そんな彼女」とあるが、看護婦との会話から読み取れる「彼女」の人物像はどのようなものか。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 36。

- 1 頭脳明晰^{めいせき}で独立心がある
- 2 高圧的だが憎めない
- 3 ユーモアがあり社交的
- 4 謙虚でおとなしい

問六 傍線部 g 「沈黙と冷笑」とあるが、それは「彼女」のどのような状態を表しているか。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 37。

- 1 上から目線で他人を見下した状態
- 2 自分の世界に閉じこもった状態
- 3 他者の力は借りないと覚悟を決めた状態
- 4 厭世^{えんせい}観にさいなまれ投げやりな状態

問七 傍線部 h 「後に残ったのは、何とも言えない無力感」とあるが、なぜ「無力感」を覚えたのか。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 38。

- 1 病気による苦痛で変わっていく「彼女」や「彼女」と周囲との関係に対し、なすすべもなく死を迎えてしまったから。
- 2 「彼女」の死に至る病に対して、今の医療ではできないことに限界があることをまざまざと見せつけられたから。
- 3 苦痛によって人格が変わってしまった「彼女」と、立派な死に方をした男性との違いに、死の無情さを感じたから。
- 4 明るく前向きに病氣と闘っていた「彼女」が、このような死で一生を終えるとは想像もしなかったから。

問八

傍線部「医療という最新の科学の現場にしながら、そんな素朴な感覚が思い起こされてくるのです」とあるが、それはどのようなことか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は39。

- 1 最先端医療技術を駆使しても避けることのできない人の死は、たとえどのような形であれそのままを受け入れるしかないと思われなければならないこと。
- 2 医療という科学は日々進化していくのに対して、人が死に対してできることはいつの時代も変わらないので、できることを精一杯するしかないと思うということ。
- 3 生命を守る医療の現場で、人が死に抗えない現実を見るにつけ、自らの生き方や死に方向に向き合う心のもち方が重要であることと再認識させられるということ。
- 4 死という天命からは逃れられないが、患者がその生を全うできるように医療従事者としての役割を精一杯果たすことが大切だと確信すること。

問九

「人間は生きてきたのと同じように死ぬ」という考え方を、筆者はどのように捉えているか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は40。

- 1 死に方は運によって決められる一面もあるが、間違いなく生き方が死に方に影響を与えるので、的を射た考え方である。
- 2 人が前向きに生きるための目標として心にとめるのはいいが、その考え方もって人の生き死にを評価してはいけない。
- 3 死の前で無力な人間がしぼり出した虫のいい考え方はあるが、死が身近にある人にとって希望になるのも事実である。
- 4 いい生き方をすればいい死に方ができるといふほど死というものは甘くないので、その考え方は受け入れがたい。